

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	高 知 県
-------	-------

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	土佐清水市立清水小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	3	2	2	2	16	26
児童数	82	77	74	83	71	79	2	468	

II 研究の概要

1. 研究主題

<p>豊かな心と確かな学力を身につけた児童の育成 ～基礎学力の定着をめざして～</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>・全学年・算数 学力検査の結果、全学年に共通して課題が見られた。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>○テーマ 基礎学力の定着と仲間づくり ○研究の見通し テーマに迫るためには、まず児童が学習意欲を持ち、主体的に学習課題に取り組むことが大切である。そのためには、児童の学校における学習環境や日々の授業の（工夫）改善が望まれる。それゆえ、仲間作りや実際の授業における思考する場面の設定の仕方や発展的、補充的な学習の指導の確立に主眼をおくことにした。（本年度が指定初年度で暗中模索であるが先進校視察や講師を招いての研究会等を重ね、テーマに迫りたいと考えた。）</p> <p>○研究の内容・方法 ・安心できる友達関係の中で、切磋琢磨し、互いに高めあえる学習環境作り ・個に応じた支援 ・少人数、専科、複数指導の充実 を柱として、基礎学力部会、仲間作り部会の2部会をスタートさせた。</p> <p>《基礎学力部会》 児童の考える力を伸ばし育てることや計算力の向上に主眼をおき、朝の3分間計算タイムの設定と充実、効果的な少人数指導、複数指導の研究に取り組んできた。</p>
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

以前から月曜日以外は、学級毎に読書朝礼や計算朝礼を実施していたが、4月の学力検査の結果を受けて、校時の見直しを行い、全学級で朝読書とその後3分間計算タイムを導入した。

さらに、週1回の裁量の時間を「しみずタイム」として、全学年で計算力の定着とアップに取り組んだ。

《仲間作り部会》

縦割り掃除班での活動を通じて、多学年にわたっての仲間作りに主眼をおき、ふれ合いランチタイム、班対抗のゲーム・レクリエーション、砂の芸術（お別れ遠足）等の活動に取り組んできた。

本校は、学年あたり2～3クラスである。学習意欲はあるが友達との関係がうまくいかず、つらい思いをしたり、腹を立てたり、投げやりな態度になってしまう児童もいる。クラス内のことであれば担任が関わり自力解決を促せることもあるが、他のクラスや他学年にわたって問題が起きることもしばしばである。このような実態をふまえ、縦割り掃除班での楽しい活動を通じて責任の持ち方や上級生と下級生の関わり方を学んでほしいと考えた。以下はその取り組みの一部である。

①ふれ合いランチタイム

学期に一度、掃除班で弁当を一緒に食べるという活動である。校舎内、校庭等の好きな場所に集まり弁当を食べ、その後クイズやしりとりなどをして楽しんできた。下級生にはおおむね好評であるが、上級生の中には遊ぶ時間を制約されるため「どうしてこんなことをしなくてはいけないのか」と疑問を持ち、主体的に関わろうとすることができない児童もいる。相手をよく理解し、接し方を考え、互いに楽しい時間を過ごすことの大切さを、様々な場面を通じて学んでほしいと考える。

②班対抗ゲーム

2学期の取り組みで「ジャンケン陣取り」を行った。6年生の班長の中には下級生に注意することに忙しく大変だった児童もいたが、どの班も協力してゲームを楽しむことができた。

《研究授業を通して》

日々の算数科の指導過程に基礎基本を充実させながら、個に応じて発展的な学習も積極的に取り入れることにした。発展的な学習課題に取り組むには、既習の知識をうまく利用する必要がある。学習を振り返り、さらに思考し、解決へとつながる過程は学習意欲を向上させ、主体的な学習へつながると考える。

5年生の「面積」の学習においては、三角形や平行四辺形の面積を求める学習に加え、台形の面積を求めることを指導計画に位置づけた。これはあくまで公式を導き出すといった学習ではなく既習の知識を基に面積を求めるものである。導入や自力解決の場面では、一人ひとりに対する支援を十分に考え、操作活動を通じて課題を解決しようとした。以下は指導案の抜粋である。

第5学年 算数科学習指導案

平成15年12月3日(水)第2校時

指導者 T1佐竹(少人数指導担当)

T2吉本(学級担任)

1. 単元名 面積の求め方を考えよう
〔台形の面積を求めよう〕

2. 指導観

児童は、第4学年で「面積の概念」について学習し、「面積の単位と測定の意味」「長方形や正方形の面積の求積公式」などを学習してきた。

本学年では、基本的な図形の面積について、必要な部分の長さを測り、既習の長方形や正方形の面積の求め方をもとにして計算によって求めたり、新しい公式をつくり出し、それを用いて求めたりすることができるようにすることを主なねらいとしている。

三角形や長方形の面積を求める指導では、単に面積の公式を覚えさせたり、それに基づいて計算したりするだけがねらいではなく、既習の面積の求め方をもとに新しい公式を生み出す過程を通して、①図形の一部を移動して既習の図形に等積変形しようとする考えや②倍積変形して既習の図形を作ろうとする考え、③既習の図形に分割しようとする考えなどの数学的な考えの育成をはかることも重要なねらいである。

学級の児童は、少人数指導が導入されて3年目になる。今年度は、単元ごとに担当を交代しながら授業を進めているが、単元の導入時や指導内容によってTTで指導にあたることもある。学習課題に対してまじめに取り組もうとする姿は見られるが、自分の意見を発表することや筋道を立てて説明することになると消極的な児童が多い実態があり、机間指導の時チェックして指名し、発表させ自信を持たせたり、つぶやきを大切に認め、評価することなどを続けている。

しみずタイムでは、数量、計算、図形の3グループに分かれ、5回ずつのローテーションで取り組んでいる。図形領域のCRTの結果では、基本の面積を求めることはできているが、複合図形の面積を求める応用問題では回答率が全国通過率より下回っていた。そこで2年生の問題から始め、復習している。

指導前には、その時間の進捗と指導法を確認し、指導後はどこで子どもが困っていたか、またどの子どもがつまづいているかなど情報交換をするようにしている。家庭学習では、その日の学習内容と復習問題を入れたプリント(B5)で習熟を目指している。

以上のような児童の実態を考えて本単元では、既習事項を復習することから学習を始める。そして、形を変えたり位置を移動したり、分割してもそのものの面積は変わらないことや、二つのものを合わせるとその量は二つの量の和に等しくなることを確認した上で、面積の学習に入りたい。

展開では児童の多様な考えを生かせるように図形を変形したり、分割したりする作業を多く取り入れ、どのような考え方で求めようとしたのかを自分の言葉で言わせ、操作によってははっきりとおさえさせたい。求積に必要な底辺・高さなどは、固定されたものではなく、どの辺を底辺にしても高さが分かり、自ら測定して求める場も設定しながら理解させるとともに、習熟度別少人数指導も取り入れ、発展的な学習や補足的な学習にも取り組んでいきたい。

3. 単元の目標

- 平行四辺形や三角形の面積の求め方を理解し、それらの面積を求めることができる。
- いろいろな平面図形の面積について、既習の図形の面積の求め方をもとに考えたり、活用したりする能力を伸ばす。

4. 評価規準

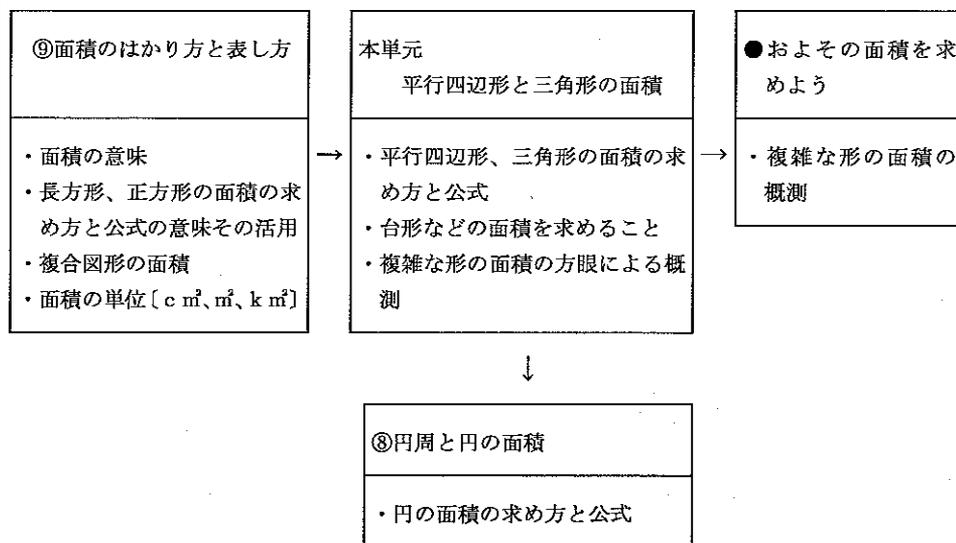
- 〔関心・意欲・態度〕・平行四辺形や三角形などの面積を求めるときに、既習の経験を進んで用いようとする。
- 〔数学的な考え方〕・既習の面積の求め方をもとにして、平行四辺形や三角形の求め方を工夫して考える。
- 〔表現・処理〕・平行四辺形、三角形の面積を求めることができる。
- 〔知識・理解〕・平行四辺形、三角形の面積の求め方を理解する。

5. 指導計画

[4年]

[5年]

[6年]



6. 本時の学習〔12/14〕

(1) 目標 既習の図形の面積の求め方をもとに、台形の面積の求め方を工夫し、面積を求めることができる。

評価規準

〔関〕 台形の面積を求めることに興味をもち、既習の図形の求積方法を活用しようとしている。

〔考〕 既習の図形に変形及び分割して、台形の面積の求め方を考えている。

〔表〕 台形の面積を求めることができる。

〔知〕 台形の面積の求め方を理解している。

(2) 展開

学 習 活 動	留 意 点	評 価 と 手 だ て	
<p>1. これまでの学習を振り返る。</p> <p>2. 本時の課題をつかむ。</p>	<p>T1・方眼の数を数えて面積を求める考えも予想されるが、それ以外に、既習の図形をもとにして面積を求めることができないかを問題にする。</p>	<p>・台形を印刷した工作用紙を配布し、これまでの学習を想起させ、工夫した求め方ができるようにさせる。</p>	
<table border="1" style="margin: 0 auto; width: 80%;"> <tr> <td>台形の面積をいろいろな方法で求めよう</td> </tr> </table>			台形の面積をいろいろな方法で求めよう
台形の面積をいろいろな方法で求めよう			
<p>3. 台形を既習内容をもとにして変形する。</p> <p>①見通しを持つ</p>	<p>・各自の見通しに応じて使えるように、方眼のない台形と方眼に台形をかいたものを準備する。</p> <p>T1T2</p> <p>・見通しのたたない児童には、切り抜いた台形を渡し、2つ合わせて</p>	<p>〔関〕 台形の面積を求めることに興味を持ち、既習の図形の求積方法を活用しようとしている。</p>	

- ②各自、台形の面積の求め方を考える。(自力解決)
- ①移動して求める方法
 - ②半分と考えて求める方法
 - ③分けて求める方法
 - ④増やして引いて求める方法

習った形にできないかなと助言する。

T1T2

- ・1つだけでなくいろいろな方法でやってみるように助言する。

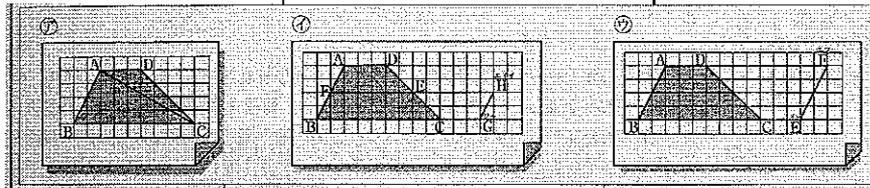
T1T2

- ・図でかいたり、式に表したり、説明も入れながら自分の考えをまとめる。

考 既習の考え方を使得、台形の面積を考えることができる。

A: 2つ以上の考えを使得て面積を求めることができる。

B: 等積変形、倍積変形、分割などいずれかの考え方で、台形の面積を求めることができる。



4. 面積の求め方について自分の考えを発表する。

○発表の視点

- ・どこをどうやって、どんな形に変えたのか。
- ・わかりやすく、順序よく説明できるようにする。

T2板書、グループ分け、児童への支援

- ・図形を変形させたり分割させたりする操作と結びつけながら発表させる。

考 面積を求める方法を考えることができる。

A: 筋道を立てて求積方法を説明することができる

5. 式をたて、計算する
- ・同じ考えのグループに分かれて式をたてる。

T1 全体指導

- ・どこの長さが分かれば、計算で求めることができるのか
- ・三角形に分割した場合は、どこを「底辺」「高さ」にしたらいいのか

T2 机間指導

- ・図形の操作と式を結びつけながら考えさせる。

6. 台形の面積の求め方をまとめる

- ・台形も平行四辺形や三角形のように、公式が使える図形に変形すれば面積が求められたことを確認する。

T2板書

- ・多様な求積方法の中でも、わかりやすさや計算処理のしやすさに着目させる。

3. 準備物

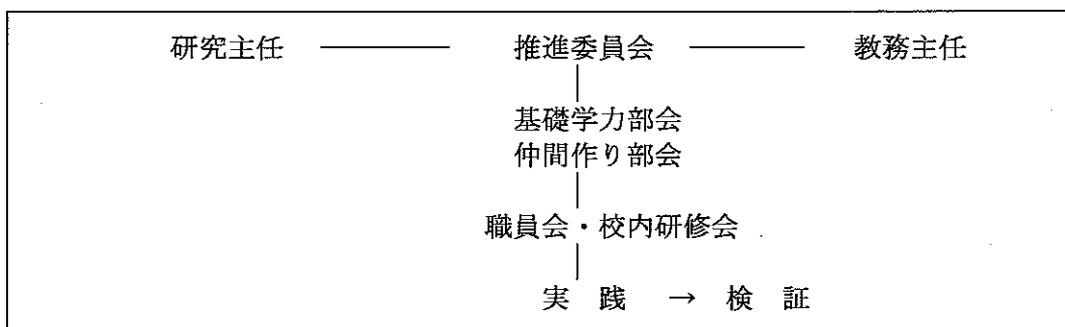
教師……プリント、発表ボード、マジック

児童……のり、はさみ、色鉛筆等

この授業は、T1・T2の複数指導で行われた。児童の学習意欲も高く積極的に操作活動(切ったりはったり)から自力解決できた児童がほとんどで、

	<p>今までの取り組みを含め（単元より指導形態を変えること……時には少人数指導、複数指導をすることや日々の指導の中で十分に個々の理解度を把握し、補充的な学習が生かされていたことなど）校内では指針となる授業であった。</p>
平成16年度	<p>○テーマ 豊かな心と確かな学力を身につけた児童の育成 ～基礎学力の定着をめざして 算数科を中心として～</p> <p>○研究の見通し 昨年度に引き続き、基礎学力の定着と仲間づくりを二本柱に取り組む。 具体的には、授業における思考する場面の設定の仕方や発展的・補充的な学習の指導方法の確立に主眼をおく。</p> <p>○研究の内容・方法 平成15年度の内容・方法をさらに充実・発展させる。 基礎学力部会・仲間づくり部会、研究授業（全教員）を通じて、児童の学習意欲の向上と指導法の確立と課題の克服をめざす。</p>

(3) 研究推進体制



III 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>○日々の授業の中に発展的な学習を取り入れ、自力解決への意欲向上が見られたとともに、しみずタイムでは段階別コースや領域別コースを設定し、その学年における基礎基本的な学習理解に効果をあげた。</p> <p>○少人数指導や複数指導により、今まで以上に個のつまずき発見が容易になり、放課後や長期休業中の補充的な学習に生かすことができた。</p> <p>○縦割り班活動を通じて、他学年児童との接し方を考えることや責任を持つことの自覚が見られ、活動もスムーズになり、高め合う仲間づくりができつつある。</p>

2. 今後の課題

<p>○基礎学力の定着</p> <p>①発展的な学習、補充的な学習の位置付けを明確にすること</p> <p>②少人数指導や複数指導における年間計画の作成やその系統性の検討が必要であ</p>

る。

- ③学力検査結果の分析を基に各学年が清水タイム（段階別コース、領域的コース）を設定した。実施方法や学習形態については2月の学力検査結果をふまえた上で検討し、実践する。
- 保護者への説明と連携に取り組む。
- 学級や学年による取り組みが中心になり、全学年による統一的な取り組み（大枠）が希薄であったので、系統性を考えた細部にわたる目標設定が必要である。

IV 学力把握のための学校としての取組

- 年度当初（4月）と年度末（2月）の学力検査の実施
- 実施後の学年研での分析、校内研での検討

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 校内研修会や研究授業への参加案内（中学校区の全小・中学校）
- 市内の教育誌『清水の教育』への寄稿

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無